

報道関係者各位

グローバル人材の代表格は緒方貞子氏。「コミュニケーション能力」がグローバル社会を生き抜くカギに ～ オックスフォード大学出版局が「グローバル人材育成に関する意識調査」を実施

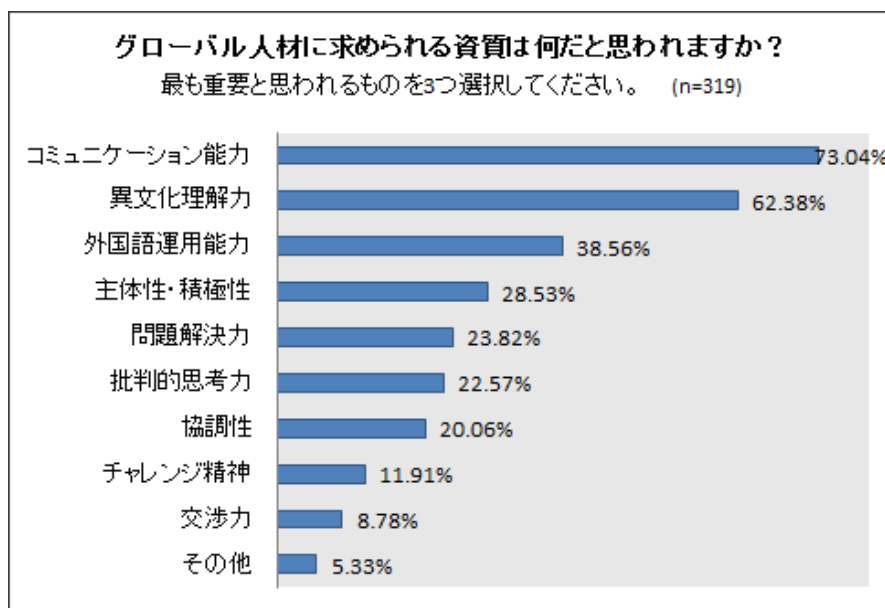
教材や教員研修、カリキュラムデザインの提供を通して英語教育を総合的にサポートするオックスフォード大学出版局株式会社（所在地：東京都港区、代表取締役：中村清和）は、教育関係者を中心とした 319 名を対象に「グローバル人材育成に関する意識調査」を実施しました。

グローバル化が加速する昨今、英語教育の有り方をめぐる議論が活況を呈し、教育現場では多様な施策が講じられています。様々な取り組みを通して、私たちは何をめざしているのでしょうか。時代に求められる人材を育むためにいま私たちがなすべきことはどのようなことでしょうか。

オックスフォード大学出版局は、来る 11 月にグローバル化と教育を巡るシンポジウム「Oxford Day 2015」を開催いたします。同イベントに先駆け、教育関係者や学習者の方々が「グローバル人材」をどのように捉えているのかについて調査しました。

■グローバル人材に求められるのは「コミュニケーション能力」

グローバル人材に求められる資質について尋ねたところ、最も多かった回答は「コミュニケーション能力」で、「異文化理解力」がそれに続きました。過半数の回答者がこれらの能力を挙げました。次いで多かったのが「外国語運用能力」でした。



■「異文化コミュニケーション」は素地形成に有効

グローバル人材の育成のために有効な手段は何かという質問に対して、「異文化コミュニケーション」や「異文化コラボレーション」の重要性を説く回答が最も多く寄せられました。次いで多かったのが「海外滞在・海外留学」を重要視する回答でした。日常的に自身と異なる文化的背景を持つ人々と接する機会があるという意味では「異文化コミュニケーション」と同義とも受け取れます。

動的な側面に着目した回答が多く見られた一方で、「教養を身に付ける」「海外の動向に目を向ける」といった、内面を強化することに重きを置く意見も散見されました。

■「グローバル化」する社会環境に適応するために「人のグローバル化」は必然

グローバル人材になることの意義、重要性について尋ねたところ、世界がグローバル化しているのは紛れもない現実であり、現代社会を生き抜くうえで、グローバルな視点を持ち多様性に対して理解を示すことは不可欠な要素であると思うといった回答が最も多く、全体の25%ほど寄せられました。また、「世界平和」や「国際的な問題の解決」に貢献するという点で意義があるという意見も散見されました。

一方で、「視野が広がる」「自己実現をもたらす」といった、自己研鑽における意義を挙げた回答も10%以上見られました。

■グローバル人材のイメージは緒方貞子氏、ネルソン・マンデラ氏

「グローバル人材」と聞いて思い浮かぶ人物は(歴史上の人物も可)、という問いに対し、最も多かった回答は緒方貞子 国連難民高等弁務官で、次いで国際連盟の理事長を務めたこともある新渡戸稲造が挙げられました。いずれも主に日本語を母国語とする回答者からの結果で多かったのに対し、日本語以外を母国語とする回答者(全回答者の約44%)による結果で最も多かったのはネルソン・マンデラやマハトマ・ガンジーでした。

分野別では、政治活動家や企業家が最も多く、次に教育者や宗教指導者を挙げた回答も多く寄せられました。その他、俳優やスポーツ選手、宇宙飛行士といった国際的に活躍する人物を挙げた回答も散見されました。

「グローバル人材」と聞いて思い浮かべる人物トップ10(敬称略)

1	緒方貞子
2	新渡戸稲造
3	マザー・テレサ
4	坂本竜馬
5	ダライ・ラマ
	マハトマ・ガンジー
7	ネルソン・マンデラ
	孫正義
9	杉原知畝
	ジョン万次郎

日本語を母国語とする回答者による
トップ3 (敬称略)

1	緒方貞子
2	新渡戸稲造
3	坂本竜馬

日本語以外を母国語とする回答者による
トップ3(敬称略)

1	ネルソン・マンデラ
2	マハトマ・ガンジー
3	ダライ・ラマ

=====

【調査概要】

実施方法: オックスフォード大学出版局ウェブサイトにて提示したオンラインフォームで実施

実施期間: 2015年9月18日~10月15日

有効回答数: 319名

回答者の属性:

年齢層は20代以上

教育関係者約68%、その他約32%。

日本語を母国語とする回答者 約56%、日本語以外を母国語とする回答者 約44%

※本データを引用・転載される際は”オックスフォード大学出版局「グローバル人材育成に関する意識調査(2015年)」というクレジット表記をしてください。

=====

■グローバル化と教育を巡るシンポジウム「Oxford Day 2015」について

開催日: 2015年11月29日(日)

時間: 10:00-16:30 講演・パネルディスカッション

16:45-18:30 懇親会(会場:カンフォア)

会場: 京都大学吉田南キャンパス 1号館

参加費: イベント参加費: 1000円(学生500円)

イベントと懇親会参加費: 3000円(学生2,500円)

主催: オックスフォード大学出版局

協力: JALT(全国語学教育学会)

詳細および参加予約: www.oupjapan.co.jp/events/od2015

本リリースの詳細は、以下までお問い合わせください。
オックスフォード大学出版局株式会社
マーケティング部 丹羽
Email: yoko.niwa@oup.com

【オックスフォード大学出版局株式会社について】

オックスフォード大学出版局は、イギリス・オックスフォード大学の一部局で、学術、研究、教育の振興に寄与するという同大学の理念を追求するために、500年以上の長きにわたって世界規模の出版活動を行っています。現在は辞書や学術書から教科書、リーダー、児童書まで、年間6,000を超える新刊を出版し、約50か国を拠点に幅広く国際的な事業を展開しています。

日本国内では1957年に東京に拠点を構えて以来、つねに時代の変遷に目を向け、現場の声に耳を傾け、専門家の方々と協力しながら事業を発展させてきました。「教育のみに力を注ぐ」ことを理念のひとつとして、教材の出版にとどまらず教材選定のコンサルティング、カリキュラム作成、教員研修の実施、シンポジウムの開催などを通して、日本の教育振興に多角的に貢献する活動を進めています。

本社：〒108-8386 東京都港区芝 4-17-5 相鉄田町ビル 3F

代表者：代表取締役 中村清和

設立：1957年11月1日

資本金：89,824,000円

Tel：03-5444-5454

URL： <http://www.oupjapan.co.jp>

事業内容：洋書の輸入・卸、および教員研修をはじめとする一切の付帯業務